

「徳島経済」、対談あれこれ

徳島経済の巻頭を飾る対談は、2003年から始まりました。7月に当研究所に着任した時点で、JTBご出身で徳島県観光協会理事(アスティとくしま館長、当時)の岩井敏久さんの原稿を掲載することになっていたため、ご挨拶に行ったら、「書くより話すほうがいい」ということだったので対談形式にしました。岩井さんには現在も、当研究所が主催する「徳島観光ビジネス推進研究会」のアドバイザーになっていただいています。第2回は、飯泉嘉門徳島県知事に出迎えていただき、県政のビジョンについて大いに語っていただきました。これまで行政で出ていただいたのは知事だけです。

当時、上場前でありメディアにも出ておられなかった大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEOの樋口達夫さんには、大塚の歴史から現状、今後の展望についてお話いただきましたが、対談内容を広く知らせたいということで、増刷して大塚の関係先等に配っていただきうれしかったです。日亜化学工業株式会社常務取締役(現代表取締役社長)の小川裕義さんをはじめ、県内の名だたる経営者の方に多く出ていただき、直接経営への思いをお伺いすることができたのは貴重な経験でした。また、徳島ご出身で、日本を代表する企業のトップとして活躍しておられる株式会社日立製作所執行役社長兼COO東原敏昭さん、株式会社ジェイティービー代表取締役社長高橋広行さんからは、グローバル戦略の重要性についてダイナミックなお話を聞くことができました。

地域経済活性化の両輪は経済と文化だと思っていますが、徳島ゆかりの文化人の方にも出ていただきました。瀬戸内寂聴さんは、当時、県立文学書道館館長で、徳島への想い、文化の魅力、阿波女の素晴らしさなど、様々な話題について楽しく語っていただきました。95歳の現在もお元気にご活躍でうれしい限りです。徳島を舞台にした小説「眉山」を発表されたさだまさしさんは、大阪のフェスティバルホールご出演前の45分間、楽屋でお会いしました。本番直前の緊張する時間にもかかわらず、にこやかにてきぱきとお話いただき、45分とは思えないボリューム感のある対談となりました。阿波よしこのの名手、お鯉さんこと多田小餘綾さんは百歳になられていましたが、過去、現在、共に、はっきりと覚えておられる記憶力に脱帽。いつまでも、女性らしさ、優しさのにじみ出てくる方でした。

徳島は過疎地の先進的なモデル地域としても有名です。その立役者である、株式会社いろいろ代表取締役社長横石知二さん、特定非営利活動法人グリーンバレー理事長大南信也さん、東洋文化研究家アレックス・カーさんとの対談は非常に刺激的でした。

今回、27回目の対談相手は、NPO法人新町川を守る会理事長中村英雄さんです。20年前に初めて徳島へ来た時から、新町川を守る会の個人会員として知り合い、きれいな川がとくしまルシェやLEDアートフェスティバルの提案にもつながりました。私の最後の対談が中村さんになったのも、ご縁を感じます。これまで対談に出ていただいた皆さん、読んでいただいた皆さんに、感謝申し上げます。